

第7回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和7年10月24日（金）15時00分～17時00分
会 場	平塚市青少年会館 2階集会室
出席委員	小島委員、鈴木委員、丸島委員、笹尾委員、國正委員、西郷委員、宮路委員 西田委員
欠席委員	比企委員、渡邊委員、飯田委員
事 務 局	石川社会教育部長、石塚社会教育課長、鳥居中央公民館長、藤田中央図書館 長、浜野博物館長、小澤美術館長、片野担当長、木村主査、宮田主事
傍 聴 者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

新首相の所信表明演説を少しだけ聞いてこちらに来たが、1975年に定めた国際女性年から50年、田部井 淳子氏が女性で初めてエベレストに登頂してから50年、男女雇用機会均等法の制定から40年という節目の年に憲政史上初の女性総理が就任したことは感慨深いものがある。また、総理になるという思いを持って目標に向かって頑張ってきた姿には、見習うべきところがあると感じている。

今期の目標は、社会教育委員会議の報告書を完成させることであるが、委員の皆さんと議論し、より良いものを作りたいと思うので、よろしくお願いします。

事務局から社会教育関係事業などの近況の報告をお願いしたい。

○事務局

秋となり、多くの事業が実施されており、市民体育レクリエーション地区大会（地区レク）を市内各地において3週連続で開催することができた。

また、平塚市文化祭も開催中である。芸能発表・展示発表などがあるので、是非会場に足を運んでご覧いただければと思う。

来月からは、市民総合体育大会が開催される。開会式から始まり、2週間程で終了する種目が多い。御都合がよろしければ会場にお越しいただきたい。

美術館と博物館の特別展のチラシを配付しているが、そちらも開催中である。国立劇場の名品展では、現在国立劇場が改修中であり、その所蔵されている美術品を別の場所で保管するのではなく、多くの方にご覧いただけるよう平塚市では特別展を開催している。

次に施設の話となるが、図書館では、南図書館が改修中のため、駅の図書室をラスカホールで開館しており、一日500名程の利用がある状況である。また、中央図書館は、令和8年6月頃から大規模改修工事に入る予定である。駅の図書室などを中央図書館の代替施

設として調整を進めている。中央公民館は、令和8年9月末をもって休館となる。代替施設としては、地区公民館やその他の公共施設を案内している。市民の要望としては、「ホテル機能を残して欲しい」、「(地区公民館では) 公共施設予約システムを活用したものにしてもらいたい」等があり、検討を進めているところである。

市内に25館ある地区公民館でも、順次改修を進めており、今年の12月からは、金田公民館と松原公民館が改修工事のため休館となる。代替施設としては、同一ブロック内の公民館を利用いただくことになっている。公民館の事務室としては、松原公民館は松原分庁舎へ、金田公民館は吉沢公民館へ移って対応することになっている。

美術館の改修工事の予定としては、今年度に基本設計、実施設計を進めており、来年度中には改修の準備のため、休館をする予定である。

博物館も改修のため、今年度の9月補正予算で劣化度調査の予算が付き、どのような改修が必要な状況なのかの調査をしていく予定である。

社会教育部の施設ではないが、教育会館が文化公園会館として、令和8年4月にリニューアルオープンする予定である。また、このタイミングで青少年会館と勤労会館が閉館となる。市民の皆様からは、閉館することで活動の場が無くなってしまうのではないかと不安の声を聞いているが、空いている公共施設を有効に活用し、対応していきたい。

2. 議事

(1) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について

○事務局

11月の標記大会での参加券、報酬・交通費について説明した。交通経路の詳細については、該当委員に事務局から確認する予定である。

(2) テーマ協議

○議長

前回の会議の意見などから事務局に報告書の中面たたき台を作ってもらっている。1ページ目の表紙には、このテーマにした説明を入れて作成したいと考えている。3館を地域の中でどのように活用していくのかという視点で構成していくたらと思い、各館のところに地域の活用事例を入れている。読んだ人がこれなら活用してみようと思えるものになればと思う。ここに挙がっている事例にとらわれず、御意見をいただきたい。また、最終ページは、各施設での課題にも触れつつ、方向性を書いていくものをイメージしている。施設の老朽化も課題ではあるが、この報告書ではハード面というよりもソフト面での活用について書いていければと思う。もしできれば、委員からの新たな提案を入れてもいいと考えている。

今後のスケジュールとしては、次回1月の定例会にほぼ完成した報告書としないと厳しいところがある。今日の会議と11月10日にも可能な委員で集まり、報告書の作成を進め

ていきたいと思う。また、細かい構成や文章はある程度一任いただけだとありがたい。今日は、各館から資料を提供していただいている。これらを見ながらどのようなものを入れ込んだらいいか、または、こうしたらしいのではないか等の御意見をいただけたらと思う。

○委員

平塚の誇るべき3館の充実や連携を考えていて、知の循環をどのようにしていくかという視点で考えている。例えば、司書や学芸員が交流して会議をしたりすれば、地域に還元できる新しいアイディアが出てくることもあるかもしれない。コラボすることで、図書館と美術館や博物館とが連携して展覧会に関連する書籍を紹介することなどもできるのではないか。

夏に「しらさぎを探せ」という事業に参加したが、正直あまりワクワクするような事業と感じなかった。ただスタンプを押して歩いて、缶バッジをもらう事業でなく、もっと人と人が関わり合いながらできる事業ができるといいと思った。

○委員

中面たたき台の右上の図は委員の皆さんのお意見を反映していてよくできていると思った。前回の会議要旨で印象に残った点は、社会教育部長が「専門職員は専門性を市民の皆さんに還元する役割を担っている」と、丸島議長がこれを受け「そこで働く職員はすべて資源であって、地域で活用しているもの多くは人材だろう」と言られたところである。

3館で活躍している具体的な人材の紹介をしてもいいのではないか。司書や学芸員の紹介をすれば、市民は利用しようと思ったり、相談しやすくなると思う。

○委員

中面の右上の図の中にある「社会教育士」は個人であるが、それ以外は施設や地域なのでどうなのだろうか。

○議長

社会教育士は平塚市では公民館を中心に置かれているかと思うが。

○事務局

現状、社会教育主事講習を受講した職員を社会教育主事として発令しているが、社会教育士として発令はしていない状況である。

○委員

「地域での活用事例」に書かれている文章を統一的に整理した方が読みやすくなるので

はないかと思う。

○委員

「特色ある取組」には、6月の会議資料で各施設の概要が掲載されているところがあり、中央図書館の「誰もがいきいきと学べ、自慢できるお役立ち図書館」の実現を目指し、図書館サービスを行っていると記載があった。このフレーズはとても良いと思った。各施設の概要の中から、選んでここに入れると良いのでは。

また、社会教育士のネットワークを活用することはとても大切だと思った。各館の取組をインターネットで発信することも大切ではないか。

市民が発信する事業やイベントの実現が今後の課題ではないかと思った。

○委員

この報告書を作成したら、各社会教育施設に置くと思う。見る人は利用者が多いのではないかと思う。利用者がこの報告書を見れば、内容を理解するかもしれないが、あまり施設を利用しない市民が見た時には、難しいように感じた。あまり施設を利用しない方々の目線で考えた時に「楽しさ」ということは重要な要素だと思う。

初めて見た人でも分かるように施設の基礎情報も入れていかないとこの報告書が意図する内容が広く伝わらないのではないかと感じる。

○委員

美術館のひらビあ一つま～れのように図書館や博物館でも専門的なチームを作っていくといいのではないかと思う。職員がどのような専門なのか紹介していると施設に行こうと思う人もいるのではと思う。

○副議長

楽しさが分かるようにという意味では、写真や絵を入れるのがいいのではないかと思う。ビジュアル的に見せるのは大切だと思う。また、右上にある図は中央にあった方がダイナミックな感じもするのでいいと感じる。

顔が見えるということでは、職員の紹介をするのはとても良いと思う。職員で顔を出したくないという方もいると思うが、博物館ではメディアに出ている方もいると思うので、自分の専門分野を知ってもらいたいという職員もいるのではないかと思う。そのような方を紹介するのは良いのでは。

記載はより具体的に「誰が何をしたか」を文章で書いてある方が分かりやすいと思う。

○議長

人材の紹介をすることも大切であるが、当初このテーマにする時にイメージしていたの

は、各施設でできることのメニュー化をすることだった。そこまでは、今回なかなかまとめてにくいのではと思っている。

各施設の地域での活用事例の紹介や各施設の職員の専門分野を紹介することでもいいのではないかと思う。職員の紹介については、要望や希望として報告書に入れるという形でもいいのでは。

日頃、利用していない人の目線はとても大切だと思う。利用していない人をどう取り込んでいくのか考えることは重要なことだと感じている。もう一つ大切な目線では、子どもの目線で考えていくことだとも思う。教育力ネットワークのある地区では、イベントの企画会議に子どもが入って子どもの意見を反映させているところもある。こうして子どもの意見を聞くと子どものネットワークから新しい人が参加してくれるようなことも期待できる。会議に参画した子はより主体的に関わってくれることにも繋がったりする。

専門的な知識のある市民を育成することも重要だと思う。博物館では、展示物を解説するボランティアの方がいたりする。

あと、市民の声で企画した事業が展開することができると良いと思う。市民自らが企画できる場があるといいし、各館でも既に行っているものもあるかと思う。そのようなことを報告書に入れられたら良いと思っている。

報告書たたき台の中で、中央図書館の活用事例として、「平和の紙芝居」の事例があるが、特定の地域での活動ではなく、全市的な活動範囲でもあるので、掲載する事例としては別のものが良いと思う。

○議長

博物館の「地域と学ぶ普及体験事業」とは、具体的にどのような事業か。

○事務局

博物館の教育普及活動を大きく含んでいるものである。博物館が地域の情報収集をして、市民に還元することもあるし、市民が博物館の蓄積した情報から発信している部分と両方を含むものである。地域を舞台にして、地域の方々とともに調査・研究活動したものが循環するような仕組みである。

○議長

実際、地域と連携した調査・研究した事例はあるか。

○事務局

P23 にあるH25 年度の事業で「水と生きる里 金目の風土とその魅力」というものがある。金目地区全体の歴史から現状、現代のくらしなどを金目エコミュージアムの方々が原稿も執筆して、図録と展示物を作成して紹介しているものが代表的なプロジェクトである。

○議長

美術館での団体向け研修・体験プログラムとあるがどのようなものか。

○事務局

団体からの依頼により、開催中の展覧会の観覧に際し、レクチャーする内容のものである。美術館事業報告のP23にはスクールプログラムを掲載しているが、年度によっては企業や任意団体から依頼されることもある。過去には地区公民館事業として、地域の方を対象にレクチャーを行っていたこともある。

○議長

美術館の体験プログラムとはどのような体験のことか。

○事務局

P21・22に一般と子ども向けのアトリエでのワークショップを中心としたプログラムを掲載している。絵や立体物等の制作体験を主で実施している。

○議長

例えば、地域の団体からワークショップを実施して欲しいという要望には対応しているか。

○事務局

地域の団体からは学芸員が鑑賞のレクチャーをしていることはあるが、ワークショップをして欲しいという要望は現状ない状況である。

美術館から出向く場合は、スクールプログラムと対話による美術鑑賞授業がある。対話による美術鑑賞授業では、ひらビあーつま～れという市民ボランティアの方が中心となり、学校に行き、絵画などの美術鑑賞の授業を行うものである。

○議長

例えば、地区公民館事業としてお願いされたら、対話による美術鑑賞は対応可能か。

○事務局

スケジュールの調整が付ければ、可能だと思う。現状、地区公民館から依頼はない状況である。

○議長

11月に報告書作成のために集まり、作業をする予定だが、報告書作成に掲載する写真や

事業のデータを3館に提供をお願いすることがあると思うので、御協力いただきたい。

鈴木委員から提案のあった各館の職員の人材紹介のコーナーを作った時に課題となることはあるか。

○事務局

積極的に紹介して欲しいと考える職員とそうではない職員もいる。各職員の考えに配慮をする必要があると思う。職員の顔や専門性などをPRすることは、基本的に良いことだとは思う。市民の方に親しみを感じてもらったり、紹介された職員を訪ねて来る方も出てくるかもしれない。ただ売れっ子になり過ぎてしまい、業務に支障が出てしまわないかという心配もある。博物館協議会でも、学芸員を積極的に紹介した方がよいのではないかという声は複数いただいている。博物館界全体でも、担当者の顔の見える展示というのは少しずつ進んできている。どのようなところで職員のPRをするのが効果的なのかを見極めながら考えていきたいと思う。

○議長

現在、博物館では、職員（学芸員）の紹介は行っているか。

○事務局

プラネタリウムの投影を担当する職員が3名いるが、その似顔絵をプラネタリウムの入口に貼り、紹介している。

○議長

学芸員の中でも、人前に出るのが得意な人やそうでない人もいるだろうと思う。
美術館はどうか。

○事務局

（博物館と同様に）職員の考え方の違いや負荷の偏りの懸念はある。過去には、日曜美術館というテレビ番組への出演や広報ひらつかで学芸員が取り上げられたり、YouTubeでの情報発信時に顔や名前を出すことはあったので、できないこととは考えないが、懸念されるリスクをどう解消していくか考えていく必要はある。

○議長

図書館の司書だと博物館や美術館の学芸員とは違うところがあるかもしれないが、子ども読書活動の協議会に絵本の読み聞かせの手ほどきをして欲しい等の要望はあるか。あるいは、本の修理を教えて欲しいなどの要望はあるか。

また、対応する職員は専属の方がいるのか。

○事務局

図書館は対応できる職員が対応するようにしている。

絵本の読み聞かせを教えてもらいたいという要望は多くない。

地域に出向くサービスとしては、移動図書館の出向や団体貸出サービスがある。児童クラブ、高齢者施設、保育園などの要望に対応している。

○委員

この報告書の1ページ目の題名はどのようになるか。

○議長

「社会教育施設（図書館・博物館・美術館）の地域での活用について」となるだろう。

○委員

私は学生時代に地質図を作る課題があり、博物館の学芸員に詳しいことを聞きに行つたことがある。市民個人が学芸員に聞きたいことがある人もいるだろうと思う。地域の中に個人が入っているとは思うが、個人の活用を報告書に載せていくことも大切ではないか。

○議長

私がこのテーマを決めた時に、地域（団体）が各施設に行ってサービスを享受することはあると思う。しかし、地域側の発想として学芸員や司書の方を地域に呼んでサービスを受けるというものが無かったと思う。地域の詳しい方に聞くという考えはあると思うが、学芸員のような専門性がなかつたりする。

団体に対応している各館のサービスがあるのであれば、そのようなものを報告書の中で紹介し、活用を図っていくことができたらと考えた。個人については、疑問に思ったり、課題があれば、必要なことを自分で調べに行ったり、関係する施設に問い合わせをするだろうと思う。地域（団体）が利用しやすいよう報告書を現状の情報宅配便のようにメニュー化することも考えたが、専門職員の業務の圧迫にもなりかねないことも考慮して、過去の利用例などを具体的に紹介するようなことはできるのではないか。

各館で職員の業務の圧迫以外で考えられる課題はあるか。

○事務局

平塚市博物館では、年間50件ほど学芸員を外部講師として派遣している。市内の地区公民館からの依頼が多い状況であるが、依頼があれば基本的にはお断りをせずに受けている状況である。しかし、今後地域のさまざまな団体から依頼があった場合にどこまで対応できるのかという懸念もある。全てを学芸員が対応するのではなく、場合によっては学芸員

より詳しい人を知っている場合もある。その場合には、学芸員を通してより詳しい人を紹介することもできるので、博物館にお問い合わせいただきたい。

もう一つの展開としては、博物館では分野ごとのワーキンググループがある。このワーキンググループの中には知識が豊富な方もいる。ものを作るとか体験学習では、学芸員以上の技量を持つ人もいる。(さまざまな要望に応えることは難しいことだと思うが) 要望に応えられるような人材を育成することを今後も意識して取り組んでいく必要があると感じた。

○委員

公民館では、公民館主事会議等で主事同士が情報交換をする機会がある。

また、博物館で講師となるような方を人材登録すれば、講師としての技量がとても上がっていくのではないかと思う。

○事務局

以前、中原公民館で中原地区の石仏を案内する講座があったが、この時は当館の石仏を調べる会の会員を講師として派遣したことがある。テーマによっては、学芸員と同じくらい詳しい方がいる。

学芸員が地域に出向く場合には、基本的にその地区の話をするようにしている。学芸員にとっても勉強になることだと思っている。

○議長

地域の方には、学芸員の知らないことに詳しい人や貴重な資料を持っていることもある。これが博物館にとって貴重な資料や資源になったりすることもある。

美術館、図書館で考える課題はあるか。

○事務局

美術館では、教育普及のワークショップやスクールプログラム、団体向け研修・体験プログラムなどを実施している。現状、地域のニーズに合わせた内容で学芸員が地域に出向いてレクチャーすることは人員的に難しい状況がある。

まずは、過去に実施していた地区公民館からの美術鑑賞講座の依頼を復活させる働きかけを行うことから実施できたらと思う。

学芸員のPRの話があったが、まずは美術に関する素朴な疑問などからでも良いので、お気軽に連絡・相談いただければと思う。そこから、興味のあるものを拡げていける取り組みができればいいと考えている。

○事務局

本の修理のノウハウを教えるものなどの一部は、地域に出向いて教えることが可能なものもあるかと思うが、どのようなものが有効なのか検討していきたいと考えている。

○議長

委員の皆さんの中で、報告書たき台で意見等はあるか。

○委員

右上の図にある外側の「連携」はどこで説明するか。図の左側のスペースで説明する形か。

○議長

図の左側スペースで触れるように考えようと思う。指摘のあった「連携」は、現在でも3館コラボ事業や特別展等で関連図書を紹介したりしている。

○委員

たき台の図はこの形でいくのか。図の三角形は上下関係があるように見えなくもないと思うが。

○議長

個人的には、特に気にしなくてもいいのではと思うが…。どのようなものが見やすいものになるのか報告書作成打ち合わせで協議できたらと思う。

11月10日の報告書作成打ち合わせに出席できない委員もいると思うので、打ち合わせ後に一度、委員の皆さんの意見が聞けるようにできたらと考えている。

(3) 次回の会議予定の確認

第8回会議日程 令和8年1月27日(火) 15時00分から(会場は619会議室)

(4) その他

事務局から11月10日(月)10時から予定している報告書作成打ち合わせに参加可能な委員を確認した。

以 上